

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立戸塚第二小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月27日】

授業作り	重 点	主体的な学習に向けて、児童自身が課題や方法を選び、目的をもって学びをすすめている。
環境作り		授業の流れやノートの取り方を掲示して、全校が共通の流れで学習に取り組むようにする。また、授業規律の徹底を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やし、日常生活の中で使えるようにしていく。 ・自分の思いや考えを書いたり、発表したりして表現する力を伸ばしていく。 ・10までの数の構成（合成・分解）を理解させる。 ・加法と減法の計算の仕方を身に付けさせる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校図書館と連携して本を揃えたり、読み聞かせを行ったりして本に触れる機会を増やす。 ②学習の振り返りや感想文などで、自分の思いや考えを書いたり、発表したりする機会を増やす。 ③具体物の操作を取り入れ、確実に理解させる。 ④朝学習等で基礎的な計算に繰り返し取り組む時間を確保する。 ⑤タブレット端末、デジタルドリルを活用する。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を豊かにして、日常で使えるようにしていく。 ・書くことへの抵抗感をなくし、書く力を育てていく。進んで自分の思いなどが書けるよう、全教科を通じて、自分の考えを書く時間を確保する。 ・繰り返し上がり、繰り返し下がりの計算処理を確実に身に付ける。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校図書館等と連携し、並行読書や調べ学習など、読書環境の充実を図る。 ②学習の振り返りや感想文などで、自分の思いや考えを書く機会を増やす。 ③デジタルドリルを活用する。 ④朝学習等で継続的に、プリントに取り組む時間を確保する。
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・区の学力調査の国語は、全領域において区平均を下回っており、特に書くことにおいて理解度の低さを感じる。学習の振り返りの文章を見て 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことへの抵抗感をなくし、書く力を育てていく。全教科を通じて、自分の考えや振り返りを書く時間を確保する。 ・繰り返し練習をさせ、計算処理を確 	<ol style="list-style-type: none"> ①書くことが習慣化されるように、日記に取り組む時間を作る。 ②学習の振り返りや感想文などで、自分の思いや考えを

	<p>も、分かったことや感じたことをしっかり書ける児童が少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 算数は、「数と計算」「データの活用」において、区平均を下回っている。簡単なたし算、ひき算でも指を使って計算したり、乗法九九が定着していなかったりする児童も多くいる。 	<p>実にはできるようにする。また、乗法九九を定着させて、かけ算、わり算が素早く正確に解けるようにしていく。</p>	<p>書く機会を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ③デジタルドリルや計算アプリを活用する。 ④朝学習等で継続的に、プリントに取り組む時間を確保する。
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 国語では、説明文や物語文の読み取りの力、文章を要約できる力が児童によって差が大きい。 算数では、内容の理解にかなりの時間を要するため、基本的な計算能力や知識の定着、正確に作図することを繰り返し学習する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科の学習を通して、反復することで学習の見通しをもてるよう、授業の流れを一定にしていく。 全教科を通じて意図的に自分の思いや考えを表現する時間を確保し、主体的に学習に向かえる自信をつけさせる。 四則計算や作図にまつわる道具の使い方の学習を繰り返し行い、定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教科書の視写、国語辞典・漢字辞典の活用、「言葉の宝箱」・「ことわざ調べ」・「季節の詩」の活動を通して語彙を増やす。 ②全教科を通して学習の振り返り、テーマ作文など、自分の思いや考えを書く機会を意図的に増やす。 ③具体物、ICT 機器、デジタル教材を活用した手立てを用意する。 ④デジタルドリルを活用する。
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力（読解力、計算力、思考力）に個人差がある。 国語では、自分の思いや考えを表現するために、思考力や構成力の向上が必要である。 算数では、計算能力や知識の定着、測定に関する力が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教科の学習を通して、学習方法の選択肢を提示し、児童が選択できる機会を意図的に増やし、学習者主体の学びを実践していく。 叙述の特徴や文章構成に着目したり、資料では事実と分かったことをまとめたりする活動を行っていく。また、語句の意味や語彙を増やしていく。 四則計算などの基本的な計算力、単位の変換、数直線の描き方など、既習内容の定着を図り、活用する力を身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ①自己の課題を知り、自らの学習に必要な課題を選択して学習を進められる環境を整える。 ②デジタルドリルを活用する。 ③読書活動を充実させる。 ④どの教科でも、要点を整理して読み取る活動を取り入れる。 ⑤前学年も含めた既習内容の復習を図る。
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力だけでなく、学習意欲の個人差が大きい。 文章の内容を正確に理解するために、読解力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習方法の選択肢を増やし、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 朝読書や国語の文章の読み取りなどを通して、読解力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学習に主体的に取り組むための環境を整備する。 ②デジタルドリルを活用する。 ③読書活動を充実させる。 ④自分の思いや考えを表現す

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや考えを表現するために、思考力や文章構成力の向上が必要である。 ・問題の意味を理解する力や基本的な計算力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ作文やスピーチなどを通して、テーマに沿った自分の考えを深めたり、実体験と結び付けたりすることで、書く力や話す力の向上を目指す。 ・整数や小数のかけ算、わり算の筆算など四則計算を正確にできるように基本的な計算力を身に付ける。 	<p>る場面を増やす。(作文やスピーチなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ⑤学習に沿った計算練習に取り組ませる。 ⑥前学年も含めた既習内容の復習を行わせる。
<p>特 別 支 援</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きの基礎や日常生活に必要なコミュニケーションについて、児童の実態に合わせた自立活動を行う。 ・基本的な体の動かし方やバランス感覚、力加減などを身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 発達検査やアセスメントツールをもとに児童の実態を把握し、適切な指導、支援を行う。 ②粗大運動や協応動作を取り入れ、運動能力を高める。

■ 効果的なデジタルドリルの活用について【チェックリスト】【区教委提出用・様式2・令和8年5月8日】

- ☑ 学校は年度当初にデジタルドリルの活用について保護者及び児童へ説明をしている。
- ☑ 学校は活用の際して、IDやパスワードについて保護者及び児童へ説明をしている。
- ☑ 児童及び教員がデジタルドリルの内容や機能について概ね理解している。
- ☑ 学校は児童が授業や家庭学習においてデジタルドリルが活用できるよう促している。
- ☑ 学校は家庭におけるデジタルドリルの活用について具体的に指導している。
- ☑ 学校は全ての学年で定期的に様々な場面でデジタルドリルの課題等を児童に与えている。
- ☑ 担任等がデジタルドリルを活用し、児童一人ひとりの傾向を把握し、適した課題や指導を行っている。

■ 自校における効果的な学力定着度調査を活用した事後指導について

【令和7年度調査の結果に関する事後指導】

- ・学力調査の結果とデジタルドリルとの連携機能を活用し、一人ひとりが学習到達度に応じて苦手な部分を重点的に取り組んだり、再度確認テストに取り組んだりできるようにした。
- ・子どもたちが意欲をもち、主体的に課題解決ができるよう、授業の導入時に対話を通して課題を設定する。
- ・終末段階において、板書等を通して学習を振り返り、本時で獲得した知識や技能等を視点に子どもたちが学びを振り返り、学習事項の定着を図るようにした。

【令和8年度調査の結果に関する事後指導】

■ 自校における効果的なデジタルドリルの活用について（事前・事後指導を含む）

- ・国語科や算数科において、基礎・基本の定着や習熟を図るためにデジタルドリル・テストパークを活用する。その際、教員が子どもたちの取組状況をデジタルドリルを通して把握し、一人ひとりに合った学びの支援を行い、個別最適化された学びを充実させる。

■ HP掲載／内容更新チェックリスト

区教委への様式提出締切日	更新予定日	更新確認者職名・氏名
	<例> 5月19日（火）	主幹教諭・新宿太郎
第1回 5月8日（金）締切	5月27日（水）	主幹教諭・長野裕一
第2回 3月3日（水）締切		

